

登山専門部の活動報告

県立朝霞高校 斉藤 寛

はじめに

私ども登山専門部は、他の専門部とは「競技」に対する考えが違っていると考えております。登山は『競技する種目ではない』という点を登山専門部の共通理解・共通認識としております。が、安全な登山活動、また登山活動の多様化・活発化を図る、おしすすめる上で、さまざまな取り組みをおこなっています。また、最近では（一昨年度からは全国高校生クライミング選手権大会として位置づけられた）スポーツクライミングについては、これは『競技種目である』という点から、その普及に対しても積極的に取り組んでおります。

各大会を通しての取り組み（専門部常任委員会としての活動）

①-1 学校総合体育大会（兼全国・関東大会予選会）

男子予選は 長沢背稜から雲取山・そして三峰神社に至るコースをメインザックを背負っておこなっています。（Aコース）

女子予選は 三峰神社付近の旧大滝小学校三峰分校の跡地をベースに 雲取山をサブザックで往復するコースでおこなっています。（Bコース）

また、一般参加（オープン）コースとして、女子予選と同コースを使用。さらに別なルートとして 和名倉山コース（Cコース）と武甲山コース（Dコース）を設定しており、各校の目標・希望にもとづいて各隊が編成されます。また、それぞれのコース・隊に応じて体力・歩行技術・装備・設営撤収炊事・自然観察・マナーなどの観点を現場の状況に応じて指導しています。とくに、それぞれの項目に対して得点化をしていません。（全国高校総体・全国登山隊会では項目ごとに得点化しています）

①-2 学総体クライミング大会

川越ロッククラフトを会場にボルダリング大会（2m程度の人口壁を何箇所クリアしたかで競技します）をおこなっています。

② 地区新人大会

南部地区大会 沢のぼりを基本に取り組んでいます。（今年度は上越の沢）

北部地区大会 上越の山を会場に縦走登山をおこなっています。（今年度は白髪門山、ただし台風接近のため中止）

西部地区大会 奥武蔵の山域を会場に縦走登山をおこなっています。次期関東大会（埼玉大会）の現地調査を兼ねておこなっています。（今年度は武川岳周辺）

東部地区大会 加須市民体育館の人口壁を利用して、クライミング競技会をおこなっています。

上記4大会に各校の実情や希望に応じて参加可能にしています。なお、複数の地区大会に参加も可能です。

③ 県新人大会

福島県安達太良山域を会場に、箕輪山・野地周辺で、山スキー教室・スノーシュー・輪カン歩行講習に取り組んでいます。1泊は雪洞つくりと雪洞での生活技術を経験します。例年、20校以上が参加して大会が運営されています。

講習会を通しての取り組み (遭難対策委員会としての活動)

① 生徒対象の講習会

夏合宿・冬合宿の前に実施しています。

ア・夏山机上講習会では 「観天望気」・「自然観察・高山植物」・「山で星を見る」・「天気図の書き方、読み方について」・「熱中症の対応と予防」・「各校の合宿メニュー」・「自然保護」・「山での雷対処法」などをテーマに、専門部の教員や県岳連関係者を招いて講演会や、生徒による各校の発表をおこなっています。

イ・冬山机上講習会では 「雪崩について」・「雪洞生活の快適な過ごし方」・「山域情報」・「冬山装備」・「冬でのテント生活」などについて専門部の教員による講演会や、最近では外部の著名な登山家を招いての講演会もおこなっています。最近招いた登山家は平出和也氏・柏澄子氏・田部井淳子氏など。今年度は日本人初の8000m14峰登頂を果たした竹内洋岳氏を高校生への講演ということで、破格の講師料で招きました。

② 顧問対象の講習会

ア・顧問に対する実技講習会を年2回 6月に谷川岳・1月に八ヶ岳で実施、主に雪上技術の向上、危急時の対策、雪上・岩場での実践講習をおこなっています。

イ・生徒対象の講習と同時に、顧問の義務と責任に対し、以下の点を強調しています。

- * 情報収集の義務 現地情報の収集(地元の情報)を知る 生徒情報(生徒の健康)を知る。
- * 危険な行為に出ない義務 高校生に困難なルートはいかせない 気象を予知する。
- * 危険な状態に陥らせない義務 ばてさせない事(トレーニングの指導 コースの適否 荷重とパッキング 水分の取り方を知る) バテを見分ける。

登山活動検討委員会の取り組み

委員長が県立学校部副部長、副委員長が高体連副会長、主査が保健体育課長、副主査が保健体育課主事、委員が登山専門部遭難対策委員会委員長・副委員長・常任委員(4・5名)から構成される委員会ですが、その中の小委員会で、『高校生登山活動の手引き』・『登山活動指導の手引き』・『高等学校登山活動の基準』・『積雪期登山活動のあり方』などの検討や改訂作業をおこなっています。昨年度はこの中でも、『高校生登山活動の手引き』を12年ぶりに、改定することができました。

また、夏季・冬季・春季の各校の合宿に対する検討会議も、この小委員会がおこなっています。